

[平成25年度決算審査特別委員会（建設分科会）－09月12日-01号]

◆芝田 委員 公明党の芝田です。予定では私が最後の質問でございます。お疲れと思いますが、最後までよろしく願いいたします。

本日は、金岡公園のプールについてと、交通事故対策について建設分科会で質疑をさせていただきます。

まず最初に、金岡プールについてなんですが、土木費の4項都市計画費の公園管理費に金岡公園に関する施設整備の決算の内容が出ておりますが、金岡公園プールが昭和35年に開設されたとお聞きしておりますけども、施設の現状についてお示してください。

◎山上 大浜公園事務所長 金岡公園プールは、昭和35年当初に開設しまして、25メートルプール1面で開始しました。昭和43年までに50メートルプールや飛び込みプール、観覧席つき管理棟などを整備しました。その後は、平成16年に飛び込みプール、平成24年に観覧席を閉鎖しまして、現在、50メートルプール、25メートルプール、50メートル変形プール、25メートル変形プール、幼児プールの5面を有しております。昨年、新たな更衣室が完成しまして、それに伴いまして、旧更衣室を閉鎖しました。以上でございます。

◆芝田 委員 今、御答弁では、ちょうどこのところが、平成16年の飛び込みプールの廃止ということですのでよろしいですかね。それと、このオレンジの部分が平成24年の観覧席を閉鎖したということなんですが、一昨年ですか、市長がスポーツタウンの構想をドリームキャンプで言われて、この同じタイミングのとき、同じときに、この観覧席を使用しないということで、大変我々地元としては、保護者の声をお聞きしたんですが、その辺の内容を簡潔にお示してください。

◎山上 大浜公園事務所長 当時の状況でございますが、中学校大会の水泳競技会がございました。当初、それまでは観覧席を使用して大会を開催しておりましたが、当日は、その年度は観覧席を有しています管理棟の老朽化が進んでおることから、使用をやめまして、閉鎖しておりました。ところが、その観覧席が使用できない状況が、十分、学校関係者に、また保護者の方にも伝わっておらなくて、当日、開催の折に混乱があったというような事情がございました。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。ここのオレンジのところは、最初は金岡公園事務所が1階にございまして、2階が更衣室、そして、屋外というのは、いわゆる斜めにコンクリートの階段があつて観覧席と。上から中学校等の競技大会をするのが見れたと。保護者の方は、やはりながめもいいし、我が子のクラブの日ごろの練習の成果をここで見たいということでしたのが、いわゆる安全性の問題で、今の御答弁あったように、廃止にせざるを得なかったということで、また、今現在は、この2階にありました更衣室等もこっちのほうに移ったんですね。いわゆる南側ですか、ですね、ということですね。わかりました。それでは、新たに完成した更衣室の整備概要についてお示してください。

◎山上 大浜公園事務所長 平成25年6月に完成しました更衣室は、鉄骨造の平家建てで、建築面積は417.02平方メートルです。券売機と受付のある玄関ホール、男女更衣室及びトイレを整備しました。建築費用ですが5,316万3,600円でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、私もこの地元の隣接してました中学校にもおりましたので、金岡現北中学校ですけれども、本当に小さいときからお世話になったプールなんです。現在のこのプールの利用状況についてお示しいただきたいと思います。

◎山上 大浜公園事務所長 過去5年間での利用状況をお答えさせていただきます。平成22年度は6万9,629人、平成23年度6万1,127人、平成24年度6万6,933人、平成25年度6万3,380人、平成26年度は速報値でございますが、5万6,507人でございます。なお、利用期間は年度により若干異なりますが、おおむね7・8月の2カ月でございます。また、例年6万人以上の利用がございますが、今年度は8月の天候不順により、特に集客が期待できる週末は雨天が多かったことから、6万人を割ってしまったと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 ことしの夏は日照も、雨も多かったということだそうなんです、それでは最も利用者数が多かった時期、そしてまた人数についてお示してください。

◎山上 大浜公園事務所長 これまで最も多かった時期ですが、昭和53年度、西暦でいいますと1978年ですが、この年には23万5,000人の利用者ございました。以上でございます。

◆芝田 委員 常任委員会のときの質問で、泉ヶ丘プールのお話がありまして、そのときのピークが20万9,000人ということで、ちょっと泉ヶ丘プールの利用者数もちょっとお示しいただきたいと思います。

◎山上 大浜公園事務所長 泉ヶ丘プールでのピークの人数ですけれども、昭和58年、20万9,000人でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 そうしたら、最近はどれぐらいの利用者数ですか。

◎山上 大浜公園事務所長 ここ数年での利用でありますけれども、12万から13万人の利用者がございます。以上でございます。

◆芝田 委員 私も泉ヶ丘プールの中身をきっちり知らないんであれなんです、先ほどの答弁でいけば、現在、6万人前後で、泉ヶ丘プールは12万という、このいわゆる倍、泉ヶ丘プールのほうが利用者が多いんですが、この辺の分析みたいなことはございますでしょうか。

◎山上 大浜公園事務所長 細かに調べ尽くしたのではございませんが、現在の状況でございますけれども、プールの配置が一つにはあるのかと考えております。特に泉ヶ丘プールの近辺では、それに類似するようなプールが近辺にない、少ないということですね。一方で、金岡公園には類似したプールが比較的多いというようなことが考えられるかと思っております。以上でございます。

◆芝田 委員 公園事務所長には、ちょっとその辺は泉ヶ丘の話は全然するとは言うてなかったので大変申しわけなかったんですが、その辺もしっかりまた分析していただきたいなと思います。

それと先ほどの観覧席のいわゆる使用しないときに、また議論というか、市民からあったのは、この金岡公園のいわゆるオレンジの右のほうの、いわゆる50メートルプールは、堺市内で1つしかない、いわゆる中学校等の競技の公式タイムがはかれるという、そういう50メートルプールだというふうに聞いておりますけれども、それで間違いないでしょうか。

◎山上 大浜公園事務所長 委員御指摘のとおりでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 泉ヶ丘プールには、50メートルプールはあって、そこは公式タイムははかれないですね。

◎山上 大浜公園事務所長 泉ヶ丘プールは公認プールではございませんので、タイムはとりますけれども、公式タイムにはなりません。以上でございます。

◆芝田 委員 わかりました。この後、また議論は、いわゆる金岡公園のプールの利用者数を上げていただきたいということも要望なんですけど、それとまた、そのためには、やはり老朽化したプールとか、またいろんな面で、もちろん更衣室を新たにつくってはいただいたんですが、市長の言われるスポーツタウン、そしてまた区にですね、区教育・健全育成会議も、そういう議論も進んでいる中で、ここを整備をしていただきたいというのは大きな要望です。お金もかかって、確かに使用期間が夏の限られた期間で、その後すぐメンテをして、次のシーズンに間に合わすということで御苦労されているというふうにお聞きをしておりますが、それではこのプールの利用者をふやす取り組みについてお聞かせください。

◎山上 大浜公園事務所長 金岡公園プールは、平成21年度を除きますが、平成18年度より指定管理者により管理・運営を行っております。現在、指定管理者がリピーターをふやす取り組みとしまして、ポイントカードを配布しまして、5回利用で次の1回を無料で利用できる家族でおでかけ節電キャンペーンを一昨年度に引き続き実施しました。また、利用者へのサービスと集客力向上のため、子ども水泳教室などの各種イベントを開催しました。次年度に向けましては、指定管理者との協議となりますが、評価の高い企画等を踏襲しながら、新たな魅力ある企画を検討しまして、市民の皆様に安全、快適で楽しく利用できるような運営をめざしてまいりたいと思っております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。もう最後に要望ですが、先ほど今言われた、いわゆる安全がね、泉佐野でしたかね、プールのこともまたありましたので、やはり、まず安全をしっかり第一に運営のほう、よろしく願いいたします。また、実際今使っていないこのオレンジのところの、あとの利用も、計画もまだ決まってないとお聞きしておりますし、せっかくなので、南側のほうにはテニスコートとか、そしてまた健康遊具コーナーとかウォーキングコーナーとかありまして、高齢者なんかでも利用されてま

すので、いわゆる高齢者対策として、できるだけ日よけをつけたりして、クールダウンでこの金岡プールを利用していただくような、やはりそういった取り組みというか、そういう企画も考えていただきたいというふうに思います。以上をもちまして、この内容は終わらせていただきます。

次に、交通事故対策についてのところではありますが、土木費の第4目交通安全対策費というのがございます。本市議会も参画している「交通事故をなくす運動」堺市推進協議会が取り組んでいるところの決算内容だと思っておりますが、改めてこの内容についてお示してください。

◎小島 土木監理課長 「交通事故をなくす運動」堺市推進協議会は、本市における交通事故をなくす運動を推進することによって、市民の交通事故防止を図るとともに、交通安全の確保に寄与することを目的に、昭和38年に設立されたものでございます。現在、堺市議会を初め、本市教育委員会、市内各警察署、堺市自治連合協議会と84の団体・機関で構成され、本市における交通安全の普及・啓発活動のかなめとなっております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、当協議会の負担金の推移について、過去3年の決算額についてお示してください。

◎小島 土木監理課長 過去3年における決算でございますが、平成23年度は1,034万1,000円、平成24年度及び25年度につきましては、ともに902万2,000円となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、取り組み内容を具体的にお示してください。

◎小島 土木監理課長 具体的には、街頭キャンペーンや自転車利用者への指導啓発、区民まつりや地域のイベントでの啓発ブースの出展、一般ドライバーを対象にした講習会や高齢者を対象にした安全教室を開催しております。また、各校区における交通安全活動のリーダーとして、地域交通指導員を、事業所における安全運転管理指導教育者として職域交通指導員を委嘱し、指導員の方々を中心として、地域、職域、それぞれの実情に応じた交通安全活動に取り組んでいただいております。昨年度、新たな取り組みとしまして、スタントマンによる交通事故の再現シーンを実演した、スケアード・ストレイト安全教育などを行い、好評を得たことから、今年度も実施する予定でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 現在の交通事故の状況について、自転車に関連する事故も含めてお聞かせください。

◎小島 土木監理課長 本市における平成26年1月から7月末時点での交通事故の状況でございますが、発生件数2,345件、死者数9人、負傷者数2,802人で、前年同時期と比較しまして、発生件数で345件の減少、死者数で1人の減少、負傷者数で504人の減少となっております。また、自転車の関連する事故は645件で、前年同時期と比較して159件の減少となっており、交通事故件数全体に占める自転車関連事故の割

合は27.5%で、前年同時期と比較して2.4%減少している状況となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。全国的にも交通事故は減ってるけれども、それに対する自転車の事故がふえております。今、御答弁では、その件数がちょっと割合も下がっているということなんです、自転車の安全利用の条例も10月1日から施行もいたしますし、また大阪府も、やはり全国的にもそうなんです、大阪府も自転車事故を減少させていこうということで、この6月から大阪府警の方が、自転車特別指導隊を編成して、重点地域の交差点にいわゆる啓発活動をされているんですが、その内容について簡単にお示しいただきたいと思います。

◎小畠 土木監理課長 委員お示しのお大阪府警本部が行っております自転車特別指導隊というものは、平成26年6月2日から試験的に実施しているもので、交通事故の割合が多いということで、交差点や路上においてルール違反をしている自転車運転者に対して指導を行っております。目的としましては、自転車利用者の交通ルールの遵守とマナーの向上を図ることを目的としております。以上でございます。

◆芝田 委員 私もこれは知ってたんですが、実際8月に北区の北花田の交差点で4名の警察官が取り締まって、取り締まりというよりも、いわゆるちょっと赤で横断歩道渡る自転車に笛を吹いて注意を促したりとか、また、危険な運転している自転車をとめて注意をしているということを目の当たりにさせていただきました、声もかけて、どれぐらいの頻度でされているんかとか、いろいろお聞きをいたしました。新聞等では知ってて、実際、目の当たりにすれば、やっぱりこういうことが、やはり警察中心に取り組んでいただくことが、一つ一つ事故を減らす、またマナーアップにつながるかなというふうに思っております。

ただ、残念なことに、堺市のやっぱり担当者もそういうことをしっかりキャッチをしていただいて、また一緒に堺市のそういった担当者もずっとはもちろん無理ですけど、決めて行って、そういう現場を見て、啓発活動にもちょっと参画して、また現場で今どういうことがあるということをお願いしたいなというふうに思っております。

ちょっともう時間もあれで、この自転車のマナーアップ強化はもうしませんけれども、我々の同僚議員が8月の31日に、いわゆる交差点で、また横断歩道渡っているときに自動車に当てられて亡くなるという、大変痛ましい、またつらい経験をしました。また、情報によりますと、その事故を起こした加害者のほうも30代の御婦人ということで、子どもさんもおられるということで、大変そっちの加害者の今後のことも含めて、本当に何もいいことないというふうに思います。特に交差点のやはり事故というのは多い。我々、免許更新するときも、大体やはり事故の頻度の中で、交差点での事故をいつも教えてもらったり、またビデオ等でさせていただくんですが、堺市として交差点、最後のほうの質問ですが、交差点に対して、どのような交通事故に対する思いと、また安全対策としての認識をお持ちかお聞かせいただきたいと思います。

◎小畠 土木監理課長 交差点での安全対策でございますが、我々行政としましても、所轄の警察署とタイアップをしていかないと、なかなか交通安全に対しての指導啓発というのは普及しないということは認識しております。堺市におきましても、今、第9次堺市交通安全計画という5カ年計画を定めておりまして、この計画の中では、1年間における交通事故死者数12人以下、死傷者数5,000人以下とすることを目標としております。交差点の安全対策にしましては、この間、皆さんも報道提供であって御存じかと思いますが、ラウンドアバウト、環状交差点ともいいますけども、それを東区日置荘西町の地内で設置しております。これは大阪府内で唯一運用されたもので、具体的には車両の通行する部分が環状になった交差点でございます。道路標識により右回り、時計回りに通行すべきことが指定されているものでございます。この環状交差点の採用によりまして、交差点での待ち時間や交通事故の減少が期待され、また、信号機の設置が不要となるため、災害時等の停電による混乱を回避できる利点がございます。この交差点は、環状内を通行している車両等が優先となるなどのルールが定めており、ラウンドアバウトが明記された改正道路交通法が平成26年9月に施行されてつくられたものでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 いろいろちょっと打ち合わせ以外のことを聞いて申しわけない。交通安全対策の目標も答えていただきました。やはり交差点の安全対策、そしてまたこういった第9次の堺市交通安全計画の事故の目標に対して、しっかり執念を持って達成していただきたい。そして、またいろんな施策、事業ですね、総動員して、本当に一人も犠牲者が出ない、そういう交通安全対策を期待いたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。